

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 6 年 4 月 15 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	研究会		行事番号	240000231	
開催日	令和 6 年 4 月 6 日 (土)				
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了	17 時 00 分	
場 所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室				
テーマ	よりよい微生物検査のための検査前プロセスを考える				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠				
講 師	1. 検査オーダーについて再考する JA 愛知厚生連豊田厚生病院 加藤 雄大 2. 知っていますか？適切な検体採取 西尾市民病院 鈴木 更織 3. 検体の品質評価と Rejection criteria について 一宮市立市民病院 木村 達也 4. どうやっていますか？微生物検査の仕事の進め方 小牧市民病院 西尾 美津留				
内 容	今年度は『検査技術と業務構築を再考する』を年間テーマに掲げ、研究会を企画している。本研究会はその第 1 弾という位置づけで検査前プロセスについて取り上げた。 講演 1 では、検査オーダーの適切な在り方について、事前アンケート結果を交えながらポイントを解説した。講演 2 では、臨床検査技師が直接関わる事が少ないがゆえに、知識が不足している適切な検体採取の方法について解説し、続けて講演 3 では、検体の品質評価と Rejection criteria について講演を行った。講演 4 では、事前アンケート結果を交えながら、他施設の日常検査の進め方を共有するとともに、よりチームを効果的に機能させるための手法やマインドについて講演を行った。 現地開催ならではの熱量の高い講演と、全ての講演に対し多くの質疑応答があり、現地開催の利点を最大限に活用した有意義な会であった。				
参加者	総数：65 名（会員 62 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 2 名、学生 0 名、その他 0 名、申請中 1 名）・申込総数：67 名				
共催、後援など					

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 6 年 7 月 22 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	研究会	行事番号	240003010
開催日	令和 6 年 7 月 6 日（土）		
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室		
テーマ	よりよい微生物検査のための検査プロセスを考える－前編－		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留		
講 師	5. グラム染色の作り方・見方を知る 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 寺本 侑弘 6. 培地選択・培養条件の適正化 医療法人豊田会刈谷豊田総合病院 安藤 真帆 7. 釣菌を極める JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 8. 藏前式・微生物検査マインド 医療法人豊田会刈谷豊田総合病院 藏前 仁		
内 容	今年度は『検査技術と業務構築を再考する』を年間テーマに掲げ、研究会を企画している。本研究会はその第 2 弾という位置づけで検査プロセス（前編）について取り上げた。講演 1 では、グラム染色標本の作成から適切な染色方法、鏡検のポイントまで幅広く解説した。講演 2 では、起炎菌を適切に発育させるための検体処理・培養検査について、考え方から手法までを解説し、続けて講演 3 では、標準化が難しく、どの施設でも悩み所である釣菌技術・釣菌基準について、詳しく解説を行った。講演 4 では、臨床微生物検査技師がより臨床貢献することを目指し、様々な症例を交えながら持つべきマインドについての講演を行った。 熱量の高い講演と、全ての講演に対し活発な質疑応答が行われ、非常に有意義な会であった。		
参加者	総数：77 名（会員 71 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 5 名、学生 1 名、その他 0 名）・申込総数：61 名		
共催、後援など			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班

提出日： 令和 6 年 8 月 6 日

報告者：西尾 美津留

行事種別	基礎講座	行事番号	240003245
開催日	令和 6 年 8 月 4 日(日)		
時 間	開 始	9 時 00 分	終 了 16 時 30 分
場所・配信	名古屋大学大学院医学系研究科 基礎研究棟 4 階（所在地 名古屋市）		
テーマ	初心者も大歓迎！症例から読み解く－微生物検査スキルアップ－		
生涯教育履修点数	専門教科	20	点
司 会	日赤愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹 技師 JA 愛知厚生連 安城更生病院 杉浦 康行 技師		
講 師	1. 血液培養 JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 加藤 雄大 技師 2. 尿培養 八千代病院 山口 杏理沙 技師 3. 喀痰培養 JA 愛知厚生連 江南厚生病院 宮澤 翔吾 技師 4. 便培養 西尾市民病院 鈴木 更織 技師		
内 容	微生物検査経験年数 3 年以下を対象とし、一つ一つの検査について、なぜその検査を行っているのか、検査結果にどういう意味があるのかを再考してもらう内容として基礎講座を企画した。 午前の実習では、【血液】【尿】【喀痰】【便】について日常でよく遭遇する症例を取り上げた。検査開始から最終報告するまでの一連の流れを通して、班員がコツやひと手間をアドバイスしながら、どのように考えて検査を進めていくか、臨床に貢献できる情報をどのように得て伝えることができるか、検査に有益な情報を電子カルテなどから得ることの重要性などを、実習を通して体感いただいた。 午後の講義では、午前の実習で解いた症例についてのフォローアップを行った。 参加者の大半が初めて基礎講座に参加する方であり、初めは戸惑いもあったものの、同程度の経験年数によって初級と中級を分け、参加者 2～3 名につき班員 1 名が担当することで、手厚く、参加者各々のニーズに応える実習を行うことができた。		
参加者	合計：55 名（会員 33 名、県外会員 3 名、講師 4 名、実務委員 15 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：38 名		
共催、後援など			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 6 年 9 月 9 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	研究会	行事番号	240007643	
開催日	令和 6 年 9 月 7 日（土）			
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了	17 時 00 分
場 所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室			
テーマ	よりよい微生物検査のための検査プロセスを考える－後編－			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留			
講 師	9. 正しく活用できる同定検査技術を知る 藤田医科大学岡崎医療センター 松野 貴洋 10. 理解していますか？薬剤感受性検査 日本海員掖済会名古屋掖済会病院 三谷 有生 11. 薬剤耐性菌を極める 愛知医科大学病院 坂梨 大輔 12. どこまでやるか？同定・感受性検査で求められるモノ JA 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行			
内 容	今年度は『検査技術と業務構築を再考する』を年間テーマに掲げ、研究会を企画している。本研究会はその第 3 弾という位置づけで検査プロセス（後編）について取り上げた。講演 1 では、同定検査法について古典的な手法から最新の技術まで幅広く解説した。講演 2 では、薬剤感受性の複数の検査法や結果の解釈について解説し、続けて講演 3 では、世界的に深刻な課題となっている薬剤耐性菌について詳しく解説を行った。講演 4 では、臨床検査の現場で、同定・薬剤感受性検査を実際どこまで行うべきなのか、症例ベースで参加者参加型の講義を行った。熱のこもった講演と活発な質疑応答が行われた。基礎から応用まで網羅した内容を提供することで、幅広いキャリアの参加者に満足いただける有意義な会であったと考える。			
参加者	総数：81 名（会員 78 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 3 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：71 名			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 6 年 12 月 9 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	講演会		行事番号	240016687	
開催日	令和 6 年 12 月 7 日(土)				
時 間	開 始	14 時 30 分	終 了	17 時 00 分	
場所・配信	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室				
テーマ	今、我々に求められるスキルとは？臨床検査室・臨床検査技師の在り方を再考する				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留				
講 師	1. 臨床検査技師のための統計のキホン 熊本大学病院 総合臨床研究部 研究展開センター 特任助教 橋本 賢勇 2. わたしは何しに検査室へ？ 名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 感染症内科 診療科副部長 赤澤 奈々				
内 容	本年度の講演会では「今、我々に求められるスキルとは？臨床検査室・臨床検査技師の在り方を再考する」というテーマを取り上げた。日常の検査業務において、現在自分たちが行っている検査を当たり前で正しいものと捉えがちな状況の中で、改めて「本当に求められるスキルや検査とは何か」を真剣に考えるきっかけを提供することを目的として、本講演会を企画した。 結果の集計やその統計解析は、学術活動の目的にとどまらず、疫学統計を担っていく微生物検査技師において必要不可欠なスキルである。講演 1 では、臨床研究において統計学のサポートを専門とされている橋本先生をお招きし、統計学の重要性和その基本についてご講演いただいた。統計に苦手意識を持つ技師も多い中、丁寧な解説により、参加者の理解が大いに深まったと考える。講演 2 では、感染症内科医の視点から、微生物検査室に求める技術と意識についてお話を伺った。メッセージ性の強い内容であり、多くの技師に意識改革を促し、モチベーションの向上にもつながる講演だった。現地開催ならではの熱気あふれる講演と活発な質疑応答が行われ、大変有意義な会であった。				
参加者	合計：69 名（会員 60 名、県外会員 0 名、講師 2 名、実務委員 3 名、非会員 0 名、賛助会員 4 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：48 名				
共催、後援など					

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 7 年 1 月 20 日 報告者：西尾 美津留

行事種別	研究会	行事番号	240019398
開催日	令和 7 年 1 月 18 日（土）		
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室		
テーマ	よりよい微生物検査のための検査後プロセスを考える		
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点		
司 会	愛知医科大学病院 坂梨 大輔		
講 師	13. 令和 6 年度愛臨技精度管理報告 JA 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行 14. 伝わる結果報告とは？ JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 15. データの提示と活用 ～双方の視点から学ぶサーベイランス～ 小牧市民病院 西尾 美津留 16. ICT と AST ～チームで必要とされる職種であり続けるために～ 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹		
内 容	今年度は『検査技術と業務構築を再考する』を年間テーマに掲げ、研究会を企画している。本研究会はその第 4 弾（最終回）として検査後プロセスについて取り上げた。 講演 1 では、愛臨技精度管理調査の結果を報告し、併せて感染症法や解釈に注意を要する点についても解説した。細菌検査の報告は情報量が多く、適切に情報を伝達するために課題が多い。講演 2 では、そんな背景の中で「伝わる報告」とはどんなものなのか、解説した。続けて講演 3 では、サーベイランスについて詳しく解説を行った。講演 4 では、ICT、AST チームで活躍できる臨床検査技師であるための極意について講演を行った。熱のこもった講演と活発な質疑応答が行われた。 基礎から応用まで網羅した内容を提供することで、幅広いキャリアの参加者に満足いただける有意義な会であったと考える。		
参加者	総数：54 名（会員 51 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 3 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：43 名		
共催、後援など			